

小学5年2組 社会科学習指導案

指導者 高木 敏光

1. 単元名 島根にあるノートパソコン工場のひみつをさぐろう！

2. 単元の構想

- (1) 1学期の「奥出雲町・庄内町からみる日本の稲作」の学習において、「今後日本の稲作にとって参考にするのはどちらか」についての話し合い活動後、次のようなふりかえりがあった。

奥出雲町の方は農業とかが使ってなくて、それに水や肥料にも工夫がしてあり、庄内町の方は機械でいっぱい作っていて手ごろなねだんでだれでも買えるようにしています。庄内米、仁多米の2つを比べてみてどちらもこれからの稲作を考えるためには必要だということがわかりました。(T・Y)

もう一つは、「たくさんの情報を1日でのせる新聞のひみつを探ろう」の学習において、「新聞に広告はいらないのではないか」についての話し合い活動のふりかえりである。

もし広告をなくしたら、新聞代がとて高くなって毎日買えなくなる。もし新聞代を今のままにしたら、記者の人数が減ってたくさんの情報は載せられなくなるし、校閲もいい加減になりチェックもできなくなつてまちがいがだらけのものになり読者のためにならない。広告も読者のためにとって必要なものだとということがわかった。(S・H)

T・Y児のふりかえりは、奥出雲町と庄内町の稲作を比べることによって、稲作に従事している人の工夫や努力が消費者のためのものであることを関連づけていることがわかる。さらに、両町の行われている工夫や努力が双方とも消費者のためには必要であり、これからの稲作を考えるのに必要だというように構造立てをしている。S・H児のふりかえりは、今までの新聞ができるまでという視点と違う広告を載せるといふ別の視点からみて、新聞をつくる工夫・努力が読者のために行われていると関連づけている。附属学校園社会科部で取り組んでいる構造的な社会認識の発達を促す授業づくりという視点からみると、調べ活動での情報の処理や活用について本学級では2つの子どもの特性がみられた。一つめは、調べたことを関連づけたり構造立てたりして自分の言葉で表現することができる子どもである。もう一つは、丹念に調べていき、丸写しをする子どもである。後者の子どもたちは、たくさんの情報量がありながら、関連づけたり、構造立てたりすることができにくい。後者の子どもたちも、情報を関連づけたり構造立てたりして、T・Y児やS・H児のような認識へと育ててほしい。そのためには、事象の比較や視点の変化、体験が重要ではないかと考えているところである。

- (2) 本単元は、5年生目標(2)、内容(3)ア、ウに即し、日本の工業製品が国民生活を支えていること、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きについて理解することをねらっている。従来、自動車の生産を中心に学習を進めていることが多いが、ここではノートパソコンの生産を取り扱っていかうと考える。

まず理由としてあげられることは、消費者の需要に応えるために、速く大量、かつ正確に生産するために工夫・努力している姿が実際に見学できることである。そこでは、工場の敷地を十分に使うため、さらにより効率的で正確な生産をめざすために様々な改善活動が行われている。これらの導入によって、1日に15000台のノートパソコンの生産が可能になっている。斐川町で、ノートパソコンが1台につき2000個の部品を使って、1日に15000台生産されることは子どもたちにとって大きな驚きであり、どのようにして実現しているのかという追求の意欲がかき立てられるだろう。速く大量に作るひみつをさぐる活動を通して、従事する人々が生産過程や方法などの工夫についての情報を関連付けたり構造立てたりできると考えられる。さらに、そのような工夫や努力によって我々の生活が豊かで便利になっていることを知ることができると考える。

次の理由は、ノートパソコンに対する消費者のニーズが二極化し、消費者のニーズに応える工夫・努力を行っていることが、子どもにとらえやすいと思われることである。ノートパソコンの消費者のニーズは、価格は高いが高性能・高機能のものと、価格が安いものの2つである。前者の代表的な例は、先に述べた斐川町にある工場の企業である。後者の例が、台湾や中国など新興工業国の企業であ

る。安い賃金と部品によって生産を行うことによって低価格に抑えられている。台湾の企業が従来の約4分の1の価格のノートパソコンを生産し、世界的な売り上げを上げている。それは、子どもたちにとっては、自分のノートパソコンとして考えられる価格帯に近づいてきている事象であるが、国内企業にとっては、価格を下げるか性能を下げるかの決断を迫られる事象である。高性能・高機能の生産か、低価格の生産かを比べながら追求をすることによって、子どもたちが今まで得てきたパソコンの生産における工夫・努力についての情報が消費者のニーズに応えるためのものであると関連付けられると思われる。

また、日本の工業地域の分布や特質を学習するに当たって、島根にノートパソコン工場がある意味について再度考えることによって、日本の臨海部と内陸部での工業のあり方について気づき、日本国内の工業地域等の立地も消費者のニーズに応えるための工夫であることを理解する。さらに、製品によって立地を変えることによって消費者のニーズに応え、国民生活を支えていることについて考えることをめざす。

- (3) 本単元は、子ども自身の生活と工業生産とがかかわりがあり、さらに支えられていることを理解することを目的とする。そのために、工業に従事する人々が日々生産について工夫・努力をおしまなかったり、部品や製品の輸送を含めて様々なネットワークで協力したりすることについて見学や話し合いを通して理解する。そのことを通して、工業生産が国民生活を支えていることについて考えることをめざす。そのために、本社会科部のいうところの中核となる視点を「消費者のニーズに応える」とし、見学などで得られた情報を、関連づけ構造立てたりしていこうと考える。

第1次ではパソコンの普及率のグラフをみせて、一世帯のパソコン保有率が年々上がり今や80%を超えていること、2台以上の保有も年々増加していることを読み取り、自分の家庭でのパソコンの利用頻度の多さや便利さに気づかせる。それにより、パソコンは国民生活を便利にする工業製品としてとらえてほしいと考える。第2次では、まず1日に2000個の部品を使って1日15000台の生産という事実に出会わせる。するとどのようにして、工場がノートパソコンを速く正確に生産しているのかという疑問が生まれ、追求が始まると思われる。その際には、前単元で学習した新聞ができるまでを生かしながら、部品調達のこと、多くの人々が協力すること、消費者のためにより多くのニーズに応えなければならないこと、正確に生産することの必要性などの視点が生まれると思われる。この予想したことを検証するという意識で見学にいこうと考える。見学の際には、生産工程ばかりではなく、部品調達の仕方や納品方法など、子どもの目に見えにくいところにも関心が向くようにしたい。見学後、速く大量につくるひみつについて考えたことを、個人でまとめ、その後話し合いによってまとめる。ライン生産や生産過程におけるむだをなくす工夫や努力から、人々が協力して生産を行うことによって速く大量に生産できることを理解できるようにしたい。

第3次の1時間目は、5万円台のノートパソコンが世界的に売れていることを紹介する。5万円台のパソコンは、低い機能の部品によって中国などの安い賃金の国で生産することによって、低価格に抑えていることを資料等で理解する。そこで、本時ではノートパソコンに対する消費者のニーズが、第2次までの、高性能・高機能ばかりではなく、低価格であることに気づき、日本の企業が消費者のどのニーズに応えるべきかを考える。子どもの意識は、安ければ安いほどよいという考えが多いと考えられる。今までの学習をもとに、日本の企業が価格を抑える中で、高性能・高機能をめざして生産してきたことをふりかえられるように、低価格パソコンや日本の企業に対するアンケート結果を紹介する。本時を通して、高性能・高機能も、低価格も消費者のニーズに応えるためには必要不可欠であり、消費者の立場に立てば、それによって生活がより便利になることに気づかせたい。

3. 活動展開計画 (全11時間 本時11/11)

次	主な学習活動	時	具体的な学習活動
1	くらしとパソコンのつながりを知ろう	1	・くらしの中にどれだけパソコンが普及しているのかを知る。

2	ノートパソコンが速くて大量につくるひみつをみつけよう	2	・ある工場では2000個の部品があるノートパソコンを1日15000台作っている事実を知る。
		3	・ノートパソコンを速く大量につくるひみつを予想する。
		4~7	・斐川町にある工場を見学する。
		8 9	・見学してわかったことを個人でまとめる。 ・ノートパソコンを速く大量につくるひみつは何なのか話し合い、まとめる。
3	これからのノートパソコンづくりについて考えよう	10	・5万円台のノートパソコンが世界的に急速に売れていることを知り、安くつくられる理由について資料をもとに話し合い、まとめる。
		⑩	・日本の企業は将来どのようなパソコンをつくっていけばよいのか話し合い、まとめる。

4. 本時の学習

(1)ねらい

5万円のノートパソコンが急速に売り上げを伸ばしている中で日本の企業はどのようなパソコンをつくっていけばよいかを考えることによって、ノートパソコンの生産に従事する人々がどのようにして消費者のニーズに応えようとしているのかを考える。

(2)展開

学習場面と子どもの取り組み	教師のはたらきかけと願い
1. 斐川でつくられているノートパソコンと5万円台のノートパソコンの違いを発表する。 ・価格が違う。 ・ついている機能が違う。 ・一つひとつの価格が違う。 ・主につくっているところが違う。	・前時で学習した後に、家族に聞いてみた結果を紹介し、家族の中でも必要性に関して意見が分かれることを意識させる。 ・日本の企業ができるだけ高性能・高機能で、安いパソコンをつくっていったことを前次までの学習をふりかえって想起し、課題を設定する。
2. めあての確認をし、自分の意見を書く。	

今後日本の企業は高性能・高機能と低価格、どちらのパソコンをつくっていけばよいのか考えよう

3. 今後日本の企業はどちらのパソコンをつくればよいのか発表し、まとめる。 ○高くても高性能・高機能のもの ・壊れにくくて、たくさんの性能があるほうがいいと思う。 ・日本の良さに自信をもった方がよい。 ○性能が少し悪くても低価格のもの ・安いパソコンを必要としている人がいるならつくった方がよい。 ・自分たちにも買えるくらい安いノートパソコンを作ってもらえるようにしたい ・日本の10分の1の賃金だから、きっと日本の企業なら中国でならもっと安いのがつくれると思う。 ○消費者が望むならどちらも必要では… ・米や新聞のように消費者が望むものをつくるのが大事だと思う。	・家庭が必要としているかなどを聞いて、それに対応するにはどうすべきかを考えるようにする。 ・安くても性能が高い方がよいという意見が出た場合は、斐川の工場で生産したパソコンもできるだけ安くしようとして努力していることを想起する。 ・今までの学習から、日本の工場が行っていている工夫・努力が、従事している人々の創意創作であることに気づかせる。 ・消費者の立場に立った意見なので、生産者側として消費者の「安くても高性能」というニーズにどのようにしたら応えられるのかを考えるもとする。 ・消費者のニーズが多様になってきていることを消費者のアンケート結果から気づかせる。 ・自分の家で調べた結果、第1次のパソコン保有率のようすから、家庭ではどのようなパソコンが必要だったのかを想起し、消費者の立場によって必要だという性能や価格が違うことを意識するようにする。 ・双方の意見をまとめる視点として、結局どちらもどんなことに気をつければよいのかを問い、消費者のニーズに応えるような製品をつくることの必要性に気づけるようにする。 ・消費者側で考えている子には、生産者側の立場に立ち、消費者のニーズに応えるために工夫・努力していることを自分なりの意見として表現できるように、「メーカーの人が気をつけていることは～。理由は」という文章で書くよう勧める。
4. ふりかえりを行う。 ・買う人のことを考えると、性能が高いのは日本で、安いのは中国でつくって売った方がよいのではないかと思った。どちらか一方なら、買う人が困り、便利な生活ができないと思う。	